おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 18 号（9 月 22 日）

サッカー部保護者の皆様、ＯＢの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Yリーグ　連続引き分けで6位確定

3 連休を活かして、9 月 18 日（土）、20 日（月）にＹリーグが行われました。7 月に他のチームよりも 1 試合多く消化している山東にとって、20 日が最終節（14 節）[1]。18 日の対戦相手は山形城北。この節を迎えた段階でＹ１単独 2 位の成績を残している好チーム。山形城北の顧問は、モンテのホームゲームのラジオ解説をしばしば務めており、サッカートークを含む話術全般で地区をリードしている。その方が率いる今期の城北は、顧問と選手が一体となって明確なビジョンをもって戦っているという印象。出たとこ勝負の山東からすれば明らかに格上で、いつも言っている「力の差をスコアの差にしない戦い」が求められる。

試合序盤、予想以上に山東の選手の動きが良い。地区新人で優勝したことが自信になっているのか、高い位置でボールを奪ってからの速攻がたびたび決まり、予想に反して押し込む立ち上がり。「こんなはずじゃない」と迷いが生まれているのは城北の方。城北のファンタジスタを抑えこむ戦い方が当たった模様。ただ、ボールをしっかりと保持することができず、ボールを奪ってもすぐ奪われたり、相手のミスをこちらのミスでお返しすることが多い。Ｏｎの選手（ボールを持っている選手）の問題、すなわち技術・判断力の不足ですが、Ｏｆｆの選手（パスを受ける側の選手）も効果的かつ素早い動きでパスを受ける位置に入っていない。プレッシャーを受けている味方を見ても、その味方がワンタッチ・ツータッチでパスを出せる位置にいち早く動かないものだから、結局Ｏｎの選手がミスをしてしまう。**山東の選手は少ないタッチでプレーする習慣、さらに言えば少ないタッチで効果的にプレーするために早く判断して動く習慣がついていない（指導者が習慣づけし得ていない）ということ**[2]。ゆえに、前線の選手の動きなどに関わらず、敵のプレスに焦って闇雲にロングボールを繰り出すプレーが頻出している。とはいえ、格上チームにほぼ見せ場を作らせなかった前半の粘り強い戦いは「よく頑張った」の一言。前半０－０。

しかし後半、調子が上がらない中でも得点につなげるのは上位チームゆえでしょう。危険な位置で与えたＦＫを、試合前「セットプレーで絶対に離すな」と言っていた城北のＤＦ

---

[1] 他のチームは 23 日が当初予定の最終節です（羽黒高校がインターハイ出場のため 2 節ほど欠場した関係で、23 日にＹ１のすべての試合を終えることができません）。山東は 23 日が 9 月末の前期期末考査のテスト休み期間に当たることから、リーグ開幕前の組み合わせの会議にて 23 日前に全日程を消化できる組み合わせをお願いして、認めてもらったのでした。

[2] もちろんボールを早くはたこう（離そう）とし過ぎて、不必要に焦って技術的ミス、判断のミスをしてしまうことはありますが、敵の出方によっては早くはたけるレベルに、山東の選手が至っていないことは事実です。ポイントは、次のプレーへの早い判断が必要な場面でもゆったりボールを保持してしまっている、それゆえ焦って精度の悪いプレーを重ねているという点です。

にヘディングシュートを決められ、失点。しっかりとマークしていたとしても恐らく彼のヘディングは止められなかったでしょうが、最悪なのは彼をフリーにしていたこと。これまでしばしばファーサイドの選手がフリーになっていることがあり、ニアからファーに回られた時のマークの甘さ（ボールから遠ざかる動きをされたときにマークする選手とボールを同一視できずに外側に「離してしまう」こと）が気になっていましたが、まさにそこを突かれたプレー。山東はファーに回った選手を捕まえ切れないと（正確に）読んだ城北の狙い通りのプレーだったのでしょう。しかし（両者の実力差を考えれば）試合展開は決して悪いわけではない山東からすれば、2 失点目を食らわず機を見て得点を狙うしぶとい戦いを続けるのみ。そんな無欲の姿勢を勝利の女神も好んだのか、左サイドから中央にポジション変更した嶋貫が右サイドでドリブルし斜め前方に左足のアウトサイドでセンターリング、それを相手ＧＫ・ＤＦよりも一瞬早く触ったＦＷ多田が右足で軽く？流し込み、同点に。そしてそのスコアを「守り切り」、１－１で終了。理想を言えば勝ち点 3 が欲しかったですが、力関係を考えればまさに御の字。今思えば滑稽ですが、「いやぁ、地区新人を経てチームは成長しているなぁ」などと安堵した試合でした。この思いが、すぐ裏切られるとは・・・。

20 日の相手は新庄東。新庄東は暫定 5 位で、暫定 6 位の山東としては勝たなくては上に行けない相手。引き分け以下で 6 位が確定してしまう。試合は城北戦とは打って変わって、序盤からはっきりしないプレーが続き、劣勢。ミスをミスで返す、山東名物「ミス返し」とでも自虐的に言いたくなるプレーが多く、顧問の血圧は上がりっ放し。普段きれいな日本語を口にしている（ウソ）顧問から出る言葉も、汚いものが多い。顧問の後ろで試合を見ている清野ＯＢ会長、奥山副会長の顔も、選手の低調さと顧問の口汚い声掛けに曇りがち（と後頭部で予想していました）。前半の後半からは、少しずつアンカーの乾が試合を落ち着かせるシーンが多くなりましたが、しっかりマークされているワントップにただ放り込むだけで、彼が作ったスペースを狙うなどのクレバーさがチーム全体で皆無。しかも悪いことにそれをピッチ内でコーチングし合わない。当初より声が少ない代だな～とは思っていましたが、チームの調子が上がらないにも関わらず、どうやったらうまく行くのか、なぜうまく行っていないのかについてコミュニケートしない姿に失望。ハーフタイムはコーチングと呼ぶ代物ではなく、はっきり言ってお説教でした。後半、やさしいラストパスから抜けだしたＦＷがＧＫと１対１となるシーンを作るなどしましたが、明らかな優勢とは言い難い試合展開。プレーについて要求し合わず、「サイレント」（松永君のお父さんの言葉）な選手を見ていると、勝ちたい気持ちがあるのかどうか疑わしくなってくる。結局０－０の引き分けに終わりましたが、終盤、新庄東に決定的な場面を作られる完全な負け試合でした。結局今期Ｙ１の 6 位が確定。今期プリンスにいた高体連所属のチームが 2 チームありますので、県総体のシードは第８シードに決定（準々決勝で羽黒と当たる山です）。

その後 18：00 よりホテルキャッスル山形にて県新人・選手権激励会を保護者会の皆様に開いていただきましたが、「勝ってビールが飲みたかった」の一言。清野会長からも、気持ちの入っていない試合にキツ～ク檄をいただきました。とはいえ、時間が経てば（酔いが回れば）ノーサイド。試合内容を忘れて楽しくひと時を過ごさせてもらいました。保護者会の皆様、ありがとうございました。次号こそポジティブな内容の部報を届けられますよう、県新人頑張ります！！

県新人一回戦　10 月 2 日（土）　ＶＳ　楯岡高校 14：10～@天童第 2 運動広場（人工芝）
勝てば　県新人二回戦　10 月 3 日（日）　ＶＳ　米沢中央と東海大山形の勝者　12：20～@山商